

「朝鮮半島の平和」講演会、盛大に開催

主催 - NPO法人三千里鐵道
入場者は200余名

去る6月28日、「南北首脳会談への道」の著者・林東源先生を招き、6.15九周年を記念する「朝鮮半島の平和」講演会が盛大に開催された。主催はNPO法人三千里鐵道。

この日会場の名古屋駅前の名進研3F大ホールには、4時開場前から聴衆が入場しはじめ、開演時入場者は200名を越えた。

開演を待つ間、会場では先月の23日に逝かれたノムヒョン前大統領の追悼ビデオが放映された。講演に先立ち全員起立し、故ノムヒョン前大統領を偲び1分間の黙祷を捧げた。

都相太理事長挨拶に続き林東源先生の講演(要旨は別紙参照)が、康宗憲氏の名通訳で進められた。小休止の後、質疑応答があった。



休憩時間にはそれぞれ、6.15、10.4宣言実践を求める寄せ書きをしたり、ノムヒョン関連書籍や講演者の著書等の販売コーナーで、本やDVD等を買求めたりしていた。

講演会終了後は、隣のサンルートホテルにおいて、出版記念パーティーが開かれた。パーティーでは、講演会の感想や著書の翻訳者・波佐場清氏、通訳の康宗憲氏等の挨拶で盛りあがった。

最後は全員肩を組み、手を取り合い、「ウリエ ソウオヌン トソイル」(我らの願いは統一)の合唱で終えた。
(当日のアンケート、5面につづく)

講演会に先立ち、当日の1時30分からは、2009年度NPO法人三千里鐵道の総会が開催された。





NPO법인
삼천리철도

講演

「朝鮮半島の平和」(内容骨子)

元統一部長官 **林 東源**

6.15南北首脳会談以後、南と北は、6月を和解協力、希望の月にするために努力した。しかし9周年を迎える今日、南北間の信頼、和解、協力基盤は崩れ、北米関係も深刻な危機に直面している。

わが民族の当面した至上課題は、分断克服と統一を成し遂げることだ。そのためには冷戦構造を解体し、平和を作らなければならない。

そのためには、第一に、南と北の不信・対決終息と和解協力、二番目に、米国と北朝鮮の敵対関係解消、関係正常化、三番目に、停戦体制の平和体制への転換が重要だ。

朝鮮半島の平和は、平和と統一の当事者である南と北が、不信と対決を終わらせ、和解協力することから始まる。

1990年代初め、南北の総理がソウルと平壤を往来して、脱冷戦の新しい南北関係を摸索し南北基本合意書を採択した。私もこの南北高位級会談の南側代表として、初めから最後まで60余回にかけて参加し、北側と協商した。

南と北は南北基本合意書を通じて、大韓民国と朝鮮民主主義人民共和国は、対外的には各々主権国家だが、“南北間の関係は、国と国との関係でない統一を指向する過程で暫定的に形成される特殊関係”と規定した。そして南北が相互尊重、和解、交流しながら、不可侵を保障する軍縮を実現させ、停戦状態を南北間の平和状態に転換させていくことに合意した。しかし、この合意は実践につながらず、南北関係は漂流することになる。米国と北朝鮮の関係が改善されない限り、朝鮮半島の平和は期待できないし、南北関係改善も容易ではないという現実にぶつかったのだ。米国は敵対的封鎖政策を持續、北朝鮮はこれに核開発で対抗した。

1998年に執権した金大中政府は、一方で和解協力の包容政策(太陽政策)を推進しながら、他の一方では米国クリントン政府を説得し、朝鮮半島冷戦を終息させるための包括的包容政策を共同で推進した。金大中政府は米国に対して“北朝鮮の核やミサイル問題は米・北朝鮮敵対関係の産物、圧迫と制裁では解決できない、朝鮮半島冷戦終息のための根本的、包括的接近で、対

北朝鮮関係を正常化し、平和を定着させていかなければならない”と説得した。クリントン政府はこの提案を受け入れ、韓半島冷戦終息のための“平和プロセス”を推進した。

このような情勢を背景に南北頂上会談が開催され、歴史的な6.15南北共同宣言を採択することになったのだ。南北の二人の指導者は“統一は目標であると同時に過程”だという認識を共にし、段階的に進めるべきと合意した。

6.15南北共同宣言の意義は?

- 1) 6.15共同宣言は、わが民族が進む平和と統一の道を明らかにした。平和統一は私たちが成就しなければならない目標だが、他人がくれるものでも、自ずと成就するものでもない。わが民族が力を合わせ、和解協力を通じて作る“過程”ということを示した。
- 2) 6.15共同宣言は、実践宣言だ。まず鉄道と道路の連結、南北往来と交流、開城工業団地の建設など五つの重点事業に合意し実践したことが、南北関係改善発展の推進力になったのだ。
- 3) 6.15共同宣言は、半世紀の不信と対決を越え、和解協力の新しい時代を開いた。南北が互いに交流協力することで敵対意識が薄れ、緊張が緩和し、民族共同体意識が育ち、相互信頼が芽生え始めた。

4) 6.15共同宣言は、私たちの力で民族問題を解決することができるという自信感と民族の尊厳を誇示した。民族問題を当事者の南と北が合意すれば、国際的支援と協力を得ることができ、私たちが主導していくことができるということを立証したのだ。

しかし包容政策に否定的な李明博政府のスタートと共に、南北関係は後退しはじめた。

昨年夏に金正日国防委員長の健康異常説が出てく

るや李明博政府と与党の一部では、北朝鮮の急変事態に備えた軍事的介入計画を検討した。これに平壤は“ソウルが反北対決を追求するならば、南北関係を全面遮断することもある”と威嚇するなど、事態は悪化した。

南と北が互いに相手方が屈服することを期待しているが、武力衝突は深刻な安保危機を招く。南と北は、互いに刺戟的な言動をひかえ自制すべきだ。

米・北朝鮮の敵対関係解消と関係正常化、非核化が実現してこそ、韓半島の平和は成し遂げられる。

2001年に執権した共和党のブッシュ大統領は、クリントン大統領の対北朝鮮政策を全面否定、敵対政策を取ることによって、韓半島平和プロセスを中断させた。ブッシュ大統領は、イラク、イランと共に、北朝鮮政権を先制攻撃で除去しなければならない『悪の枢軸』と宣言する。

一方平壤は、米国のイラク侵攻を通じて、国家安保と体制維持のための自衛力強化だけが生きる道という教訓を得ることになる。ブッシュ政府がジュネーブ基本合意を破棄するや、北朝鮮は核と長距離ミサイル開発を急ぐことになる。

オバマ政府の出帆は、大きな期待を抱かせた。彼はブッシュ政府が失墜させた米国の威信を再確立し、対話を通じて懸案問題を解決すると明らかにした。そして力による一方主義でなく、国際協調を通じ、新しい世界秩序を摸索すると明らかにした。

しかしオバマ政府は、アフガニスタン、イランなど中東問題に外交力点を置き、北朝鮮問題の外交優先順位を下げることで、対北朝鮮政策検討は遅れた。しかもオバマ大統領は、北朝鮮問題を同盟国と緊密に協議し、果敢に解決していくと話した。が、その同盟国の日本と韓国は、強硬措置を主張した。

オバマ行政はすでに、圧迫と制裁という強硬策を通じて、北朝鮮の態度変化を誘導するという立場を固めたと見られる。しかし北朝鮮がこのような圧力に簡単に屈服するとは考えられない。変化を掲げたオバマ大統領は、北朝鮮との敵対関係を終息させる勇氣ある決断を下すべきだ。米・北朝鮮直接協商で、『関係正常化を通じた非核化』という根本的、包括的接近方法で転換を図るべきだ。

最後に、朝鮮半島の平和を成し遂げるためには、停戦体制を平和体制に転換しなければならない。

まず南と北、米国と北朝鮮が敵対関係を解消する一方、停戦協定締結当事国らが戦争終息に合意すべきであろう。そして、平和を担保する非核化と軍縮、軍事的対峙状態の終息などを推進し、安保脅威を根源的に解消して行くべきであろう。

朝鮮半島の平和は、分断を固定させる消極的平和でなく、統一を指向する積極的平和でなければならない。

米国は、対北朝鮮敵対関係の終息と関係正常化を急ぎ、北朝鮮は核武装の夢を捨てて平和共存を追求しなければならない。



NEWS LETTER

三千里

NPO法人 三千里鐵道

〒441 0109 愛知県豊橋市下五井町青木31
TEL.0532 53 6999 FAX.0532 54 4931

「南北首脳会談への道」

(林東源回顧録)

出版記念 パーティー 和やかに開催



講演会の感動は、出版記念パーティーへと引き継がれた。40名近い参加者は、それぞれ名刺交換をしながら歓談を交わした。

主催者を代表して、NPO法人三千里鐵道から磯貝治郎副理事長が挨拶した。つづいて林東源先生が拍手で迎えられた。東京、大阪での出版記念会を経て、今回3度目のパーティーに招かれた著者は、原本より翻訳された本の方が良くできていると、翻訳者を持ち上げ

ると、会場には明るい笑いが広がった。

多くの方が、次々と紹介され壇上に上がった。感想を述べ、著者と握手し、写真に収まり、サインを乞い…。場の雰囲気は熱し、いよいよトリの康宗憲氏のスピーチ。ずっしりと参加者の胸に響いてくる内容であった。皆の心が一つになった。

締めは「ウリエ ソウオン」(我らの願い)の合唱! この日参加者は、勇気と希望、感動を心に秘めて散会した。



前列左は近藤昭一衆議院議員、ホテルに訪れる



葡萄酒で乾杯!



蒲郡・竹島を散策

波佐場 清

立命館大学コリア研究センター特別
研究員、元朝日新聞ソウル支局長



私は80年代から90年代にかけて二度、朝日新聞の特派員、ソウル支局長として勤務したことがある。長官にも度々取材し、なんとか特ダネをものにしようとしたが駄目だった。自分の能力不足に加えて、迷惑をかけてはいけなと思ったからだ。長官にお会いする時は、どう考え見なければいけないのか、という基本的なことを教えていただいたような気がする。

随分早い時期から林東源長官が、回顧録を書いておられると聞いていた。長官なら大体どのように書かれるのか想像がついたので、内心日本人にも知らせなければと思っていた。

昨年の2月、噂のMBさん大統領就任式の席で、林東源先生にお会いして、食事もご一緒させて頂いた。その時、先生の回顧録を、韓国と日本で同時出版しようと考えたのだが、韓国では昨年の6月、私の能力不足で日本は2ヶ月遅れの8月になった。

翻訳しながら、この内容を日本社会に伝えなければという気持ちを、さらに強くした。

何故なら朝鮮半島の分断の歴史は、日本の歴史と無関係ではないからだ。

今日李明博大統領が来日、麻生総理と会って、5者会談を実現させ北への圧迫をさらに強めようと話し合われたと思う。

昨今の絶望的な状況の中であって、日本でも希望がかすかに見えてきた。最近の朝日新聞社説に、民主党の岡田幹事長はオバマが核廃絶を唱えているが、アメリカの核の不使用宣言が全ての始まりと語っている。北が核にこだわるのは、アメリカの核の脅威があるから、だから核の廃絶より核の不使用宣言が先だ、と。もし今回の選挙で民主党が勝利すれば、足元から変えられる。

林東源先生は回顧録で、朝鮮半島平和への見取り図を描いてくれた。東アジア平和への設計図を示してくれた。この通りに進めば良いのだ。

磯貝 治郎

作家
NPO法人三千里鐵道副理事長



金大中、ノムヒョン時代に我々はどれほど感動をもらったのか知れない。しかしその感動は、簡単

スピーチ 紹介

にもたらされたものではない。林東源先生の本を読むと、そのことがよく分かる。

本を読んでいる間は、先生の勇気、知力、決断力によって綴られた大きな歴史物語を読んでいるようであった。

金大中大統領との出会いで、奥さんと過ごす退任後の静かな余生を捨て、民族の大事業に挑まれたこと、そして金正日国防委員長を見る柔らかで思いやりのある眼差しに、深い感銘と大きな力をいただいた。

康 宗憲

早稲田大学客員教授
韓国問題研究所所長



波佐場先生から通訳の打診があった時、自分からは是非やらして下さいとお願いした。通訳の依頼はときおりあるのだが、自分からやらして欲しいと頼んだのは初めて。

朴チョンヒ時代、ソウル大学在学中に逮捕、投獄、死刑判決を受け、13年間獄中で暮らした。

姜尚中教授の「悩む力」がベストセラーになっているが、私が本を書くとしたら「生きる力」としたい。共に生きる力だ。

死刑囚は一般の囚人と相部屋で過ごす。刑務所の囚人は、韓国社会の矛盾を抱えて入ってくる。喧嘩して入ってきた者、詐欺で捕まった企業家、横領した公務員や殺人犯も…。狭い部屋の中で、そんな人々から教わり、叱られ、励まされ、私は生きる力をもらってきた。大学の4年間は限られた勉強だ。獄中での13年、三日に一冊、一ヶ月で10冊、一年で120冊、13年間いたから1500冊ほどの本を読んだことになるが、活字で読んだ知識はあまり記憶に残っていない。今も記憶に残っているのは、人と出会い、話をしたこと等だ。決して身分は高くはないが、韓国社会で必死に生きている人々の、血と涙と汗の滲んだ言葉と生き様から多くを学んだ。

MBと、その支持基盤であるハンナラ党は、金大中・ノムヒョンの南北関係を飛躍的に発展させた10年を、失われた10年と言っている。だが皆さん、一度私たちの胸に刻まれた希望と誇りと感動を、忘れられますか。

私はこれからも、この感動と希望と信念を心に刻み、歩んで行くつもりだ。

発足10周年に 向け、スタート!



総会后、連署への参加を呼びかける都理事長

講演会に先立ち当日午後1時30分から、2009年度定例総会が開かれた。

総会では2008年度活動と会計報告が承認され、発足10周年に向けた2009年度活動方針採択された。昨年度活動では、南北鉄道建設支援から北域緑化支援への方向調整がスムーズになされたこと、ニュースレターやブログ開設などで広報及び日常的な読者、会員とのつなが

りが強化されたことなどが報告された。

来年は6.15共同宣言とともに歩んできた三千里鐵道が、早や10年目の節目を迎える。総会では、それに見合ったビッグイベントを準備しつつ、同胞はもとより日本の市民運動とも連帯しながら朝鮮半島との連携強化、具体的支援策の模索等を積極的に進めることが提案された。

日常の中から

都 相太

学校を卒業し、小さな会社を興し、40年以上の時間が経過した。

その間、5人の子供を育て(？)、人生の大半をすごしてしまった。

2000年6月15日の南北共同宣言は、いたって冷静に受け止めていた。

「冷静」というのは、「ここまで来たか」という実感であり、その実感を、自らの人生とどのように関わりあうことができたのかという疑問でもあった。

習い性と言う言葉があるが、40年以上の会社経営は、いつも[次]のことを念頭に置いてきた。会社は常に、社会に対し具体的なものを提供する必要がある。

この共同宣言も、次の問題であった。宣言は、始まりであり、問いかけである。

三千里鐵道が結成され、約9年の時間が経過した。振り返れば、よき友人、よき同志と言える様々な人格との出会いの面白さはたとえようがない。

共同宣言の「次」は、統一への具体化である。

具体化は、日常からのかかわりである。会費を支払う、寄付をする、会合に出席するのも、かかわりであ

るが、ごみを分別する、花を育てる行為も統一への具体化であると考えている。

分断は、大きな環境問題でもある。

環境問題を論ずることは、戦争に対する批判がなければならぬ。

弱者に対する視点がなければならぬ。軍隊にしても兵器にしても、エネルギーの膨大な浪費である。なんの生産性もないことは明らかである。

過日、ノーベル平和賞を受賞したハングラデシュのモハマト・ユヌス氏の番組に出会った。貧困問題に挑戦している経済学者である。子供たちの栄養のこと、エネルギーのこと、医療のことなど果敢な挑戦は続いている。

その中で、ソーシャルビジネスという考え方ができた。

端的に言えば、配当のない企業経営である。企業の社会還元であり、資本と技術の移転である。カジノ資本主義が崩壊はしたが、そのしわ寄せは弱者に向かい、基本的な問題は何も解決されていない。

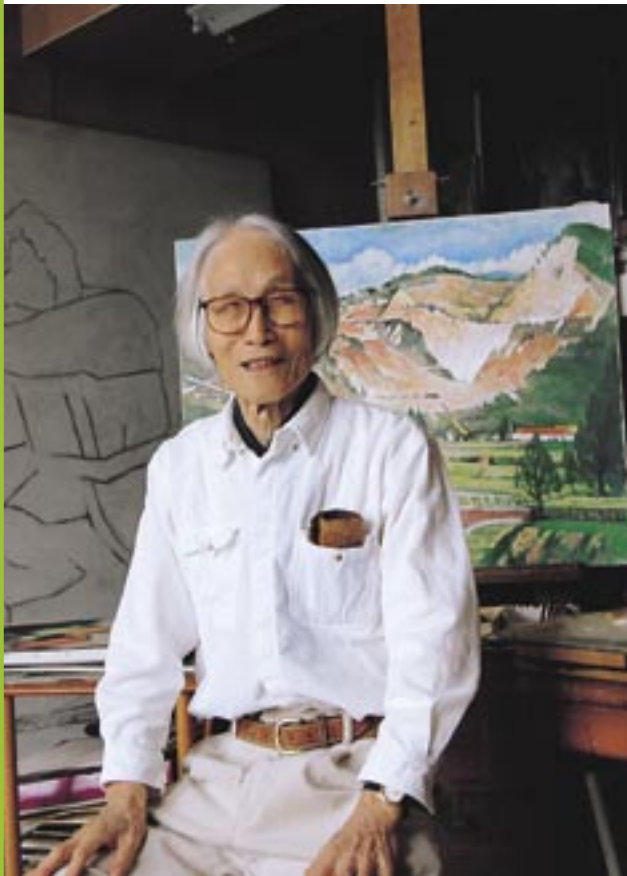
ソーシャルビジネスのようなものが、ケソン工団の周辺で展開できないものだろうか...。南北両政府が、われわれの非武装地帯の往来を承認してくれることを願っている。(NPO法人三千里鐵道・理事長)

大作に情熱をたぎらせる

呉画伯

三千里の夢切符、ご記憶でしょうか？ あの仮面舞図案の作者だ。

文益煥牧師訪北20周年記念・祈りと講演に出席するため東京に行く途中川崎インターで下り、呉画伯のアトリエにお邪魔した。



都理事長家族は、長年のお付き合いだそう。三千里のオモ二(理事長夫人)手作りのお土産を持って訪ねる都理事長の後姿は、どこか親戚の長老を気遣うような風情が漂う。

呉画伯の目じり先自然と下がる。

呉画伯はすこぶる元気、現在タイトル「仮面舞」という大作に挑んでいらっしゃる。壁一面に作品の構図とデッサンが広がる。人生最後の作品になるであろう、と語る画伯は現在85歳。

出生地は北朝鮮の平安南道、平壤商業を出た後、画家を目指して渡日した。やっと東京芸術大学に入学するが、間もなく失望し中退する。以後、民俗的でパワフルな独自の画風を拓いてきた。日本各地で個展を開き、2006年には韓国ソウルでの個展も実現した。平壤には16歳で単身帰国した娘がいる。いつか故郷に錦を、との思いはあるが、今の状況では無理。

様々な想いが交差する中、波乱に満ちた人生の集大成として、壁一面に広がるキャンパスに向かう。たぎる情熱をみなぎらせ…。

呉画伯には、日本ばかりでなく韓国にも、画伯を慕うお弟子さんや友人がいる。その日はたまたま、韓国の画家が銀座で個展を開くとのこと。東京までご一緒した。車中、在日運動の生き字引のように、様々な人生訓を語られた。元気、元気！ これからも素晴らしい絵をたくさんお描き下さい！

(写真と文・namsang)

Salam

講演会 アンケート から

日本のテレビや新聞によるニュースでは「北」のことは、全くその姿が分かりません。林東源先生のお話で、具体的な南北問題が分かってきました。6.15共同宣言に至るまでのお膳立てをなさった方であるだけに、お話しに説得力があり本当によくわかりました。

…日本政府は北朝鮮を敵視することで、日本の軍国主義化を実現しようと躍起になっています。林先生も言われる通り、オバマに変わったことにより、この危険な動きが改まると良いのですが、オバマ政権もと朝鮮に関する限り油断できません。長い年月、南北和解のために活躍してこられた林先生の高い見識と明快な現状分析を伺って、ただ悲観するのではなく長いスパンで考えて行かなければと思いました。(西條紀子・名古屋)

日々目の前のことで精一杯でした。本日の林東源先生の講演を拝聴し、グローバルな視点が必要なこと、一人ひとりの行動が大きなものになると再認識しました。気持ちが変わるようでした。(全洋子・豊田市)

10数年前、韓国から名古屋に来たが生活に追われ国のことを考える余裕がなかった。

新聞を見て講演会を知り参加したが、開演前のDVD上映で一昨年南北鉄道連結の映像を見て、胸が熱くなった。三千里鐵道の活動に興味を持った。(名古屋・男性 - 電話)

私と 三千里鐵道

あきらめず続けよう 鐵道再開の感動を 力にして

西村 寿美子



(筆者・前列左から2人目)

米良忠臣氏の経歴

父は教師をしていた。昭和20年4月、北朝鮮の新院国民学校に転勤、その後戦況悪化で軍に召集された。訓練所の教育(躰や国史など)担当後、南の麗水、さらに済州島の部隊に配属、



故米良忠臣(在りし日の父)

米軍上陸に備えていた。玉砕を覚悟するも、敗戦で22日召集解除と共に船で麗水に渡り新院に向かった。途中一人になり、ついには徒歩で向かうことに。朝鮮人を虐めていた日本人が、敗戦後報復にあっている中での帰還なので、父も危険な目に何度も遭ったそうだ。朝鮮語が話せ韓服を着ての行動であったが、ある日保安隊の尋問を受けることに。絶体絶命と思った瞬間、保安隊の一人が顔を近づけてきた。そして、自分は先生に教わったことがあると話し、彼の同行で何度かの誰何を潜り抜け、父は無事新院に帰ることができたという。

シベリア抑留を終え昭和23年に帰国後も父は、あの混乱期に朝鮮人の教え子に救われたことを語り続けたという。

三千里鐵道でツアーがあるので一緒に行こうと誘ったが、父は首を縦に振らなかった。恐らく分断されているコリアを見たくなかったのかも。

「三千里鐵道」に出会ったのは、亡くなった父が抱いていた朝鮮の人たちへの思いをどう表そうかと思っていた時でした。新聞記事で朝鮮の非武装地帯を鐵道でつなぐ運動を見つけ、これこそ朝鮮に行きかけた父の願いだと思いました。それで母と夫に事業の目的を話し理解してもらい、法要に使うお金を寄付金とさせていただきます。

その後、2002年3月のセミナーに参加しました。一世の方と話したことがなかった私は、そこに参加された特に朝鮮籍の一世の方々が韓国に来て感動されている姿を間近に見、「こんなに長く分断されるとは思わなかったから、すぐに帰れると思っていたから」という言葉を直接聞き、「三千里鐵道」に託された思いを知りました。

私は日本軍「慰安婦」問題の解決を求める市民運動に参加しています。ソウルの日本大使館前の水曜デモに行くと被害者のハルモニたちが歓迎してくださいます。その中の一人、キル・ウォノクさんが67年ぶりに故郷のピョンヤンの土を踏まれました。13歳の時、騙されて中国に連れて行かれた彼女は、解放後も分断のため故郷に帰れず家族の安否さえもわからないまま過ごしてこられました。「日陰ばかり、日陰ばかり探して歩いていた」というハルモニが勇気を振りしぼり被害の申告をし、今では世界各地を回って問題解決のため活動しておられます。しかし、そのハルモニがそれでも故郷には行くことができなかったのです。「これは奇跡だよ」と言い、北の人に会うたびに「姓は何といいますか?」と尋ねておられたそうです。「統一すれば私たちの問題ももっと早く解決できるだろう」というハルモニの言葉に、私は背中を押されたような思いです。

このような多くのハルモニ、ハラボジたちが、北と南の人々が自由に行き来できるよう、私たち日本人に出来る運動として「三千里鐵道」があると思います。現在の政治状況からは簡単ではないかもしれませんが、あのベルリンの壁が崩れたように、思いを一つにしてあきらめず続けていきましょう。2007年5月の鐵道再開の感動を力にしなが

民衆葬を執り行う 韓国民衆

● 韓 基 徳 ●

盧武鉉前大統領の自殺は衝撃的だった。その胸中はいかばかりであったかと思うに胸が張り裂けそうになった。

初めて遺書を読んだ時、最初は誰にあてたものなのかさえもわからないものであったけれど、その短くて、美しい詩のような遺言は胸の奥にずしんとくるものがあった。

国葬にするか国民葬にするかという報道に接した時に、私は怒りがこみあげてきて仕方がなかった。国葬ともなれば、喪主が李明博になるではないか、それでは悪い冗談だと思ったからである。盧武鉉は民衆葬で送らなければならない。心の底からそう思った。

路祭はまさに民衆葬の現場であった。『상복수』『사랑으로』『아침이슬』『임을 위한 행진곡』... 民主化闘争の現場で歌い継がれてきた歌が合唱された。嗚咽しながら、何かを決意しながら。

翌日私は烽火マウルに向かった。チニョン駅を降りてタクシーに乗った。同じ車でソウルの北方の一山から来たという青年も一緒に乗せた。烽火マウルの中までは行けず途中から歩いたのだが、沿道は全国から送られ

てきた横断幕と黄色い風船で埋め尽くされていた。

烽火マウルに着いた私は、まずふくろう岩に向かった。しかし、身を投げたその岩の上には行けなかった。投身を防ぐためという理由で、警察により統制されていたからである。

遺骨が安置されている浄土院に行った。記帳を見ると全国からやって来ているのが一目で分かった。誰もが無口で互いに礼節を守っていた。報道ではこの日だけでも3万人の甲問客があったという。

ソウルに戻った私はソウル広場に向かった。そこは戦闘警察のバスで完全に封鎖されていた。徳寿宮大漢門の前の市民梵香所は昨夜警察によって破壊されたのだが、復旧して守られていた。そこで、最初に遺言を読んだ時に胸にずしんと来た理由がはつきりとした。

あの遺言は妻の権良淑さんにあてられたものに違いなかった。ところが、多くの人々(私もそうだが)、自分にあてられたもののように感じ取ったのだった。

『申し訳なく思うな』と、あなたは言うけれど、私たちは、申し訳ないと思わざるを得ないのです。国民があなたを捨てて李明博を選んだ自らの愚かさを悔やみきれないのです。

『小さな碑石を一つだけ残せ』とあなたは言うけれど、私たちはあなたを、心の中に深く刻まなくてはならないのです。

(NPO法人三千里鐵道・事務局長)





今年の春、コリア国際学園を訪問した。一期生の学園生活をカメラに収めておきたかったからだ。教員室、新築の寮、授業風景を見学し、授業を終え掃除をしている姿まで撮った。

しばし教員室で小休止していると、案内の先生が一階の音楽室で小さなコンサートが始まるので、行かれたらどうかと誘ってくれた。

1階の音楽室には、すでに一期生全員が集まっていた。演奏者は、グループMMMのメンバー。後で聞いたのだが、この学校のあるオンマが所属するグループとのこと。全員がオンマのママさんグループだ。派手な舞台衣装も照明もない俄かづくりの舞台上、子供たちと間じかに向かい合っただけの演奏会だ。

ピアノ、バイオリン、カヤグム、チャンゴ、それにオルガン、ピアノカ等を交えた5人の演奏者は色々な楽曲を披露した。リーダーは、そのまんまのオンマ。スッピン?でも目鼻立ちのはっきりしたイデタチから、どこか自宅の一室で子供たちに音楽を教えている、聞かせている母親の姿を連想させた。

「崖のうえのポニョ」のテーマからアリアン、バッハからモーツァルト、はやりの大衆音楽までレパートリーは多岐にわたる。圧巻はバッハの演奏時、リーダーが厳かに一枚の肖像画を生徒の前に掲げ、「つぎはこのハラボシ(おじいさん)の曲を弾きます」と演目を紹介すると教室に爆笑が。そして荘厳なイメージのあるバッハを、いかにも軽

快に演奏してみせた。それも演奏しながら身振りを交えながら...

生徒さんの肩が揺れ、座ったまま軽くステップを踏むものまでいた。

最後の曲は、事前にプリントされた「ハナ」というハンゲルの歌を、みんなで合唱して終えた。

KISIはコリアの南北・海外共学の道の彼方に国際人、越境人として世界に羽ばたく人材育成を目指している。この日のコンサートは、そんな志を抱くオンマたちの、子供たちへの愛情と期待に満ち溢れた素晴らしい演奏会であった。華麗なコンサートホールでのオーケストラ演奏より、崇高で素晴らしい音楽会に思えた。

学校側から感謝の花束が贈られ、演奏会は終了したのだが、オンマたちと子供たちの交流はそれからも続いた。

外は晴れ、陽光がKISの校舎を温かく包んでいた。

KISIは二期に入った。茨の前途が開け、陽の射す日の来ることを願うばかりだ。

連絡先 / TEL 072-643-4200



アメリカの対北朝鮮戦略が 一目で分かるDVD

2006年韓国で放映、日本語字幕付き「朝鮮半島の平和」講演を記念して制作

お求め方法 / 同封の振込用紙に住所・氏名をご記入下さい。1,000円入金確認後発送します。

価格 1,000円(送料含む)



해외코리안 심포지움· 세계 대회

海外コリアンシンポジウム・世界大会

大きな和
-- 希望の未来 --

◎2009年12月5日[土] 13時～ **要予約**

会場 日本・国立京都国際会館
〒606-0001 京都市左京区宝ヶ池 電話(075)705-1234
Kyoto International Conference Center Takaragake, Sakyo-ku, 606-0001 Japan

- 第一部 シンポジウム(参加費用3,000円・資料代金)
パネルディスカッション(学生及び70歳以上の方は無料)
- 第二部 懇親会(レセプション) 参加費用10,000円
(学生及び70歳以上の方は5,000円)
- 第三部 6日[日] 9時～ 歴史探訪・京都方面 奈良方面
(参加費用5,000円)

参加ご希望の方は9月30日迄に事務局までお知らせください。

見えますか?
在外同胞の今日と明日

事務局 〒661-0021 兵庫県尼崎市名神町1丁目12 錦織文庫内
電話(06)6429-5101(代表) FAX(06)6429-5518
E-mail kumsu@amasan.com